

技能振興コーナーつうしん

技能振興コーナーは、厚生労働省の委託により平成25年度から「若年技能者人材育成支援等事業」に取り組んできました。この事業は、「地域における技能振興事業」、「ものづくりマイスター活用事業」、「産学官連携会議」の3つの事業推進により、本県の小中学生や職業系高校の生徒、中小企業の若年技能者を対象に人材育成や技能尊重気運の醸成を図るものです。

ものづくりマイスター活用事業の受講者数

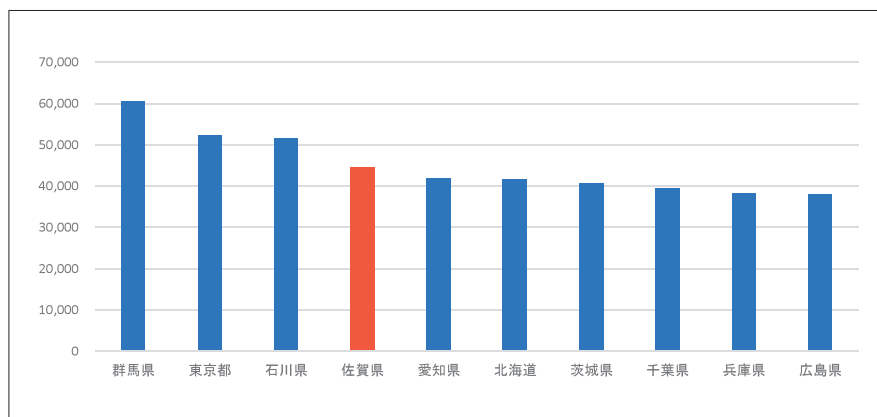
国が認める熟練の技能者「ものづくりマイスター」は、マイスター制度が発足した平成25年度において全国で2,918人でしたが、令和2年度末には11,803人となりました。佐賀県においては、当初の89人から251人に増えました。

現在、本県マイスターの人数は全国の2.1%程度ですが、令和2年度において、マイスター活用事業（企業・高校での実技指導や小中学校等での体験教室等）の受講者数は、全国の4.2%となっています。（全国175,597人のうち佐賀県7,501人：全国で2番目に多い）

また、制度発足後8年間の佐賀県における受講者総数は、44,590人（全国で4番目）にのぼっています。（図1参照）

現在、コロナ禍の中でも、各中小企業や学校等では感染防止対策に努めながら、受講者自身の技能向上、さらに、本県ものづくり産業の発展に資するため、マイスター活用事業に意欲的に取り組んでいただいています。

【図1】ものづくりマイスターによる指導の受講者数（平成25年度～令和2年度累計）

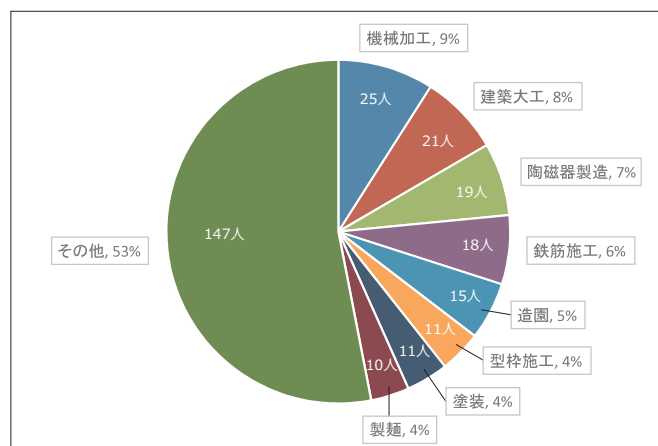


佐賀県のものづくりマイスター

現在、本県のものづくりマイスター251人のうち最も人数が多い職種は「機械加工」（25人）です。2番目に多いのは「建築大工」（21人）で、「陶磁器製造」（19人）、「鉄筋施工」（18人）、「造園」（15人）と続きます。（図2参照）

全国的に見た場合、佐賀県が多いのは「陶磁器製造」（全国50人）、「製麺」（全国20人、本県10人）、「電気製図」（全国15人、本県5人）です。（令和3年3月末現在）

【図2】佐賀県ものづくりマイスター



注）複数の職種で認定されたマイスターがいるためグラフは延べ人数（277人）で作成。



マイスターによる陶磁器製造の実技指導

ものづくりマイスターに学ぶ高校生たち

工業や農業等の職業系高校の生徒たちは、ものづくりマイスターの実技指導を受けて、さまざまな職種に必要な技能の基礎基本を学んでいます。県立嬉野高校塩田校舎（機械科1年）では、5月～9月に4回にわたり、機械加工の基礎とされる普通旋盤作業の実技指導を行っています。

ハンドルを手動で回してバイトと呼ばれる刃物を使い、回転する工作物をミリ単位以下の寸法で削るという手作業なので、高度な調整力が求められます。



◆ものづくりマイスター うちだ かずとし 内田 和敏さん 森鉄工株式会社（鹿島市）

- まず「安全」。どんな機械を扱う場合でも安全が基礎の基礎。技能以前の段階として生徒の皆さんにしっかりと学んでほしい。
- 職場が求めるのは、「頭がいい人材」よりも「(いい意味で) 要領がいい人材」、「失敗してもチャレンジする人材」。



◆県立嬉野高校塩田校舎 機械科 教諭 うぶかた よしと 生方 義人さん



- マイスターの指導による普通旋盤の実習に取り組む学校が多くなってきたと聞いている。
- 「安全」を強く意識させるためにも、まず1年生でマイスターの実技指導を導入した。
- 職場で働いておられる方からプロの声を聴いて学ぶことができた。

◆県立嬉野高校塩田校舎 機械科1年 生徒 こばやし るか 小林 流翔さん

- けがをしないことが大切だと思った。機械をなめて使っ
てはいけない。



◆県立嬉野高校塩田校舎 機械科1年 生徒 かわさき きょうや 川崎 俠也さん

- 機械の動かし方や準備の仕方を学んだ。少しでも（調整が）ずれていたらケガにつながる。

